

「告白の続き」

— 1 稿 —

2025/8/07

山極 瞭一朗

〈人物表〉

和久井 茉凜
わく い まりん

(17)
高校生

井桁 敦也
いげ た あつや

(25)
教師

栗原 一心
くりはら いっしん

(17)
茉凜の同級生

大迫 美衣
おおせこ みえ

(27)
井桁の恋人・教師

1.

高校・教室（夕）

開放された窓から風が吹き込む。

ひらひらと舞うカーテン。

井桁敦也（25）、黒板を消している。

和久井茉凜（17）、窓際列最後尾の席で、問題を解いている。

井桁、黒板消しをクリーナーに当てる。

茉凜、徐にペンを置く。

ゴーッと響くクリーナーの音。

茉凜、ちらつと井桁を盗み見る。

井桁、クリーナーを止める。振り向く。

茉凜、さっと視線を逸らす。ペンを持つ。問題を解くふり。

井桁 「和久井さん」

茉凜、ビクツとして動きを止める。

井桁 「この前のこと……」

茉凜 「あ、ごめんなさい」

井桁 「？」

茉凜、慌てて荷物を鞆にしまって、

茉凜 「バイト」

井桁 「え？」

茉凜 「すみません」

と、そそくさと立ち去る。

その拍子に、鞆から封筒が落ちる。

井桁 「和久井さん」

井桁、封筒を拾う。

『先生へ』と記されている。

風が吹き、カーテンが揺らめく。

井桁、茉凜が出ていった先を見つめる。

2.

和久井家・茉凜の部屋（夜）

茉凜、必死に鞆の中を漁っている。

壁面には、一昔前の洋画のポスターが飾られている。

『羊たちの沈黙』や『ユージュアル・サスペクツ』

など。

茉凜、鞆をひっくり返して床に中身を出すと、ベッドになだれ込む。布団に顔を埋めて、発狂。

3. 高校・外観（朝）

どんよりとした雲が空を覆う。

4. 同・階段く廊下（朝）

踊り場で手すりにもたれかかる栗原一心（17）。

手にはノート。

階下から、茉凜、来る。

一心 「おはよ」

茉凜、一心を一瞥して、通り過ぎようとする。

一心 「ちよいちよい」

と、茉凜の腕を掴む。

茉凜、ハッとして立ち止まる。

一心 「これ、助かった」

と、ノートを握らせる。

茉凜 「あ、うん」

茉凜、鞆にしまおうとするが、一心はノートを掴んだまま。

茉凜 「ん？」

一心 「俺にしとけよ」

茉凜 「え？」

一心 「気付かないと思ってる？」

茉凜 「何が？」

一心 「ずっとよそよそしいじゃん、先生に」

茉凜、一心をぐっと睨む。

一心、パツと手を離す。

茉凜、階段を上る。

一心、追って、

一心 「言っただろ、好きって」

茉凜 「……」

一心 「叶わないってわかってたろ」

茉凜、不意に立ち止まる。冷たい視線を一心に向ける。

一心も思わず立ち止まって、

一心 「何？」

茉凜 「どうして言うの？」

一心 「え？」

茉凜 「叶わないってわかってるでしょ、栗原だって」

一心 「刺すね……」

茉凜 「先に刺したのはそっち」

茉凜、教室に入る。

一心、茉凜の背を見つめる。苦笑する。

5.

同・職員室（朝）

井桁、デスクでPC作業をしている。

スマホは充電中。

デスクマットの下には、一昔前の洋画のチラシ。『エイリアン』『セブン』など。

傍にはクラス写真。隅に茉凜。

井桁、写真を見る。

大迫美衣（27）、来る。

美衣 「おはよ」

と、井桁の背面の席に着く。

井桁 「おはよう」

美衣、椅子をスライドさせて、井桁の隣に来る。

美衣 「失踪したかと思った」

井桁 「なんでよ」

美衣 「朝起きたらいないんだもん」

井桁 「手紙置いてたでしょ」

美衣 「いまだき手紙で」

井桁 「充電切れてたから」

美衣 「失踪要素満載じゃん」

井桁、苦笑。

美衣、にこっと笑う。自席に戻ろうとしてストップ。

美衣 「あ、夜大丈夫そう？」

井桁 「うん、部活休みだし、早くあがれる」

美衣 「ごめんね、平日で。特にパパが、楽しみにしてて」

井桁 「……俺もだよ」

美衣 「ありがとう」

と、戻る。

井桁、美衣の背を一瞥。そっと抽斗を開く。

『先生へ』と記された封筒。

今にも雨が降り出しそうな雲行き。

校庭を眺めながらおにぎりを頬張る茉凜。

井桁、来る。

井桁 「探したよ」

茉凜、ビクツとして振り返る。

井桁 「和久井さん」

茉凜、おにぎりをしまい、井桁の傍を通り過ぎる。

井桁、思わず茉凜の腕を掴む。

井桁 「あ、ごめん」

と、すぐに離す。

茉凜、ドアノブに手をかける。

井桁 「ちゃんと伝えてなかったよね」

茉凜 「……」

井桁 「嬉しかったよ」

茉凜、ドアノブをぎゅっと握る。

井桁 「その想いも、伝えてくれたことも、全部」

茉凜 「……ダメですよね、わかってます」

井桁 「告白してから意識するの、よくあるって言われるですよ」

茉凜、ふーと息を吐き出す。

井桁 「あれ嘘だよね」

茉凜、宙を仰ぎ見る。

井桁 「興味ない人からの好きって恐怖でしか——」

茉凜 「やめてくだ——」

井桁 「もやもやするんだ」

茉凜、井桁に向き直る。

井桁 「咄嗟に『ごめん』って言ったの、ずっと引っかかっている」

茉凜 「……美衣先生いるじゃん」

井桁 「そうだよね」

茉凜 「私生徒だよ。先生、先生だよ」

井桁 「大人げないよね。和久井さんの方がずっと大人だ」

茉凜 「まだ子供、高校生」

井桁、不意に茉凜を抱きしめて、

井桁 「それでも溢れる想いを閉じ込められない」

茉凜、思わず目から雫が滴り落ちる。井桁を抱きしめ返す。

7.

同・屋上に連なる階段

ドアノブからすつと手を離す一心。降りる。

階下から、美衣、来る。

一心 「あ、美衣先生」

美衣 「お、一心。井桁先生知らない？」

一心 「ああ……数学準備室で見ましたよ」

美衣 「ほんと？ ありがとう」

と、降りる。

一心、頬をピクつかせる。ぎゅっと拳を握る。

8.

同・屋上

茉凜、封筒を破る。

井桁、慌てて制止する。

茉凜、いたずらっぽく笑って、

茉凜 「告白してごめんなさいって手紙。いらないですよね」

井桁 「そうだったんだ……」

茉凜 「読んでなかったの？」

井桁 「勝手に読むわけない」

と、くしゃつと笑う。

見つめ合い、笑顔の茉凜と井桁。

ポツポツと雨が降り出す。

△おわり▽